

尾道の千光寺山頂展望台からは360°の素晴らしいパノラマ風景が広がる。正面に見えるのが向島



文学の香りと映画のロケ地として知られる尾道…

千光寺山の中腹にある「おのみち文学の館」には文豪・志賀直哉の旧宅や歌人・中村憲吉の旧居があるほか、林芙美子などの資料を展示する文学記念室がある。尾道三部作で有名な大林宣彦監督の映画作品なじみのスポットもいっぱい。

がんばるにゃ〜



1912年に志賀直哉が移り住んだ棟割長屋

◎ 14:50-15:30
B&G 海洋センター

START!

学校からバスで到着後、出発式を。校長先生の挨拶の後、応援に駆けつけた60名近くの保護者を前に、生徒代表から力強い宣誓があった。さあ、いよいよ出発!



MEMO

「必ず良い思い出となるので、歩ききってほしいですね」と海洋センタースタッフの声。ほかに挑戦する学校はないとか。



◎ 16:50

生口島の海岸沿いを元気に歩く。まるで南国のような雰囲気のウォーキングコース



「もともとこの行事は、本校が男子校時代に松阪城址を出発点とする伊勢街道を夜間歩行していたことから続くものです。女子生徒を受け入れた2001(平成13)年からは、安全面やトイレの確保も考慮して、現在の瀬戸内しまなみ海道というルートになりました」と中学教頭・森脇靖先生。

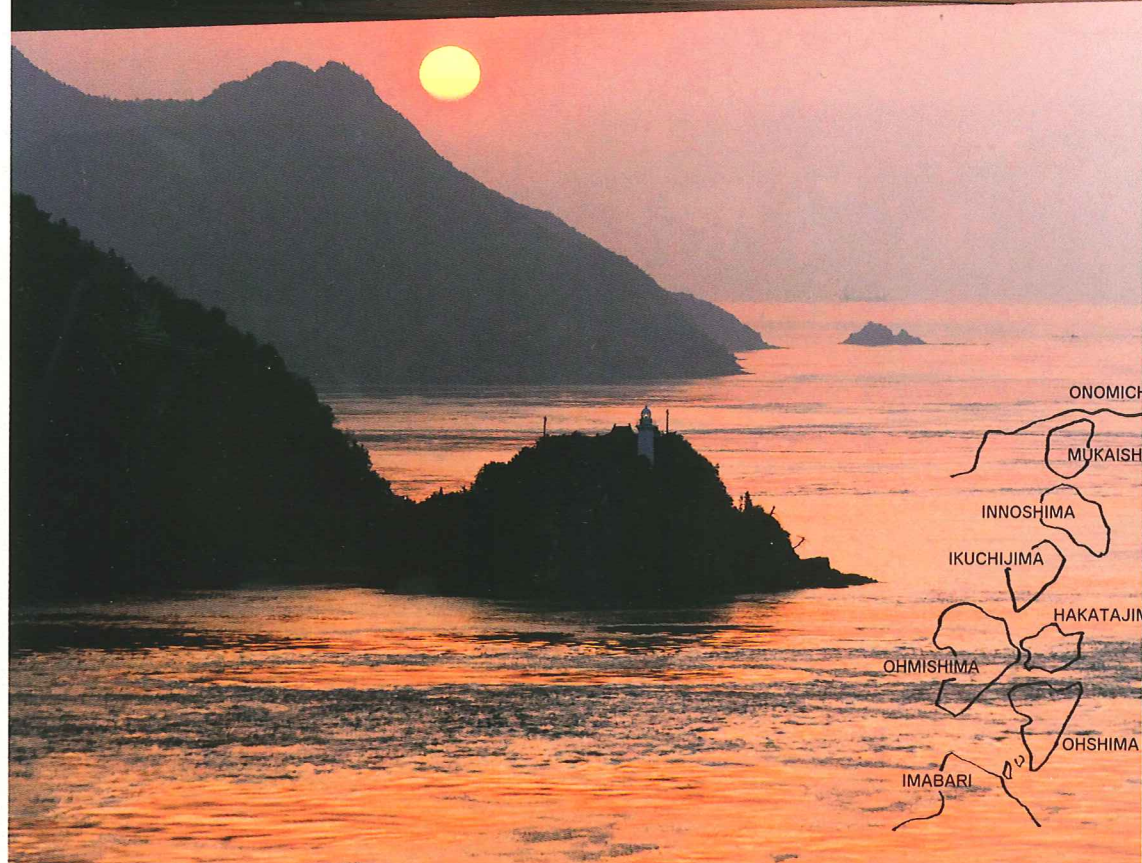
「しまなみ海道」は、広島県の尾道から向島、因島、生口島、大三島、伯方島、大島、そして愛媛県の今治まで、それぞれ異なるデザインの大橋で結ぶマリニールート。温暖な気候から、島のあちらこちらで幾種もの柑橘類が栽培されています。村上水軍の活躍など歴史的な史跡のほか、近年はミュージアムや海道全域に芸術作品が配され、「島ごと美術館」として一大アートスポットにもなっています。

こうした島々を、夜を徹して歩くのが開明中学校3年生の生徒たちです。

中学校生活の総仕上げとして行われるこの行事は、ゴールまでの道のりをひたすら歩き続けるものですが、そこには何物にも代えがたい大切なものが残ると言えます。痛む足をこらえてゴールした達成感。不安な気持ちを和らげてくれたり、あるいは眠気を笑いで吹き飛ばしてくれたりするかけがえのない仲間が存在。苦しいときにがんばることのできる励みとなることを、これまで体験してきた多くの卒業生たちが声をそろえています。「歩いている途中は、なんでこんなことせなあかんねん」と思うことは何度もありましたけれど(笑)」と語ってくれた大学生も、いま、粘り

夜を徹して仲間と共に歩く意味が、確かにありました…

ゴール地点である来島海峡大橋は、「行ってみよう! えひめの感動の地20選」で第1位の絶景スポットとしても知られる



アクティブ系私学注目ルポ2 開明 しまなみ海道夜間歩行

広島県生口島の海洋センターから愛媛県今治市の系山公園まで、約43kmの海道を14時間かけて歩く開明中学校の卒業記念行事。厳しいながらも歴史浪漫あふれる風光明媚な地を歩いた軌跡は、今後の試練を乗り越える励みとなることだろう…

3.9 mon.
10 tue.

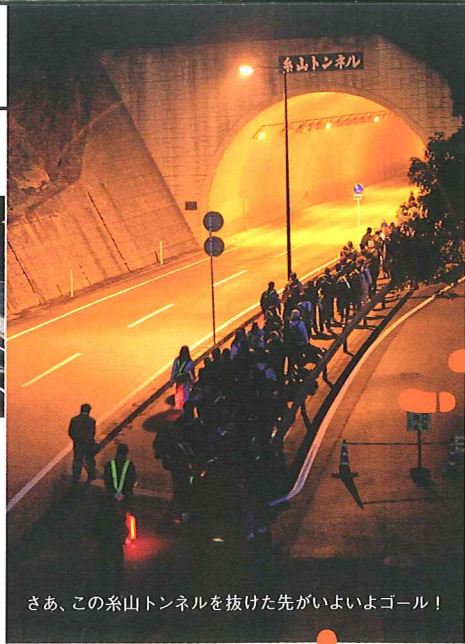


浪漫あふれる、瀬戸内の海道を歩く。

取材・文/知花 薫 PHOTO/岩井 進



大橋からのループを下りてくる



さあ、この糸山トンネルを抜けた先がよいよゴール!

MEMO

「えっ、この子たちここまで夜通し歩いてきたの!」と驚きの声をあげるのは、日の出を撮影しにきた人たち



最後は展望台でクラスごとの記念撮影を。その後、生徒たちは今治市内のホテルで朝食をとって帰路についた



保護者の送る拍手のアーチをくぐって糸山公園にゴールしたのは、まだ日の出前。観光バスのライトを照明代わりにして…

GOAL! 5:50-6:30 糸山公園



4:30 来島海峡大橋

全長約4.1kmの世界初三連吊り橋。橋建設技術が結集されている

MEMO

「ゆっくり食べて体を温めてねー」と生徒たちに声をかける保護者のみなさん。もう、みんな家族だ

保護者の方々による炊き出し。歩行する生徒や先生に熱々の豚汁とおにぎりが振る舞われる



生口島から大三島へ渡るこの橋はフランスのノルマンディー橋と姉妹橋という関係



19:00 多々羅大橋



全長約1.5kmの多々羅大橋を渡る。橋の上では時折強い風が吹き、体感温度もかなり低い

22:00-23:00

伯方S・Cパークで炊き出しを



トコト! 関西私学



17:00-18:30

サンセットビーチで夕食!

お弁当をビーチで食べる。目の前に見えるのは「ひよこりひょうたん島」のモデルになった島

MEMO

「今年は結構ペースが速いんじゃない」と言うのは、雨天時の待機用に控えていた観光バスの運転手さんたち

日が暮れてきたので、ヘッドランプと夜光たすきを装着して出発



強く研究する日々を送っています。 スタートからゴールまでに見つけた 感動ストーリーの数々

生徒たちが到着する前、広島県尾道市にある千光寺山頂(標高144m)の展望台にありました。これから向かう「しまなみ海道」を見据えておきたかったからです。そこからは瀬戸内海に浮かぶ大小の島々が重なり合っていて見え、生徒たちが橋を渡るたびに一つひとつの試練を乗り越えていくイメージが浮かんできます。まさにそれは生口島出身の日本画家・平山郁夫画伯の名作「求法高僧東帰図」に重なり合う不思議な体験でした。シルクロードや仏教を題材にした作品で知られる画伯ですが、生徒たちの出発地点となる生口島には、平山郁夫美術館があります。

さて、意を決して夜間歩行のスタート地である生口島の「B&G海洋センター」に向かいました。14時50分には生徒・先生方を乗せたバス5台と保護者が乗った2台がそろって到着。出発式を終え、校長先生の号砲によって歩行がスタート。先生方は先導とともに、生徒たちの列の合間に入ります。2台の車が伴走するなど安全管理も万全。生徒たちの出発とともに、さっきまで停車していた観光バスも夕食場所である「サンセットビーチ」に向かいました。歩行時は小雨がちかつく天気でもあり、万が一の場合はバスの車内で夕食をとることができるようにとの配慮です。

各クラスは女子が前、男子が後ろという編成。約200名もの生徒たちですが、海岸線に沿った美しい景色を眺めながら列を乱すことなく歩が進められます。夕食のあとは日が暮れて、ヘッドランプと自動車のライトで反射する夜光たすきを身につけます。日没後の島内では人影もほとんどありませんが、撮影スポットを求めて生徒たちの先回りをする、タヌキが道を横切ったり、イノシシの親子が歩いていたり、驚くこともいっぱいあります。生徒たちはほとんど街灯のない島内を歩きますが、多々羅大橋や大三島橋など、橋梁の点滅灯が幻想的な風景を醸し出していました。

22時頃には、保護者のみなさんが炊き出しを行う伯方S・Cパークに到着。冷えた体に熱々の豚汁とおにぎりというおもてなし。「さあ、食べて元気だしてー!」とくん、いい顔してるねー」とお母さん方の声が響き渡ります。わが子も友だちも一緒、みんなが一体感に包まれました。温かい声援を受けて、生徒たちは深夜の歩行に向かいました。

伯方・大島大橋を通り抜けると、距離としては最も長い大島に入ります。ここでは20分30分の小休憩を2度はさみ、最後の来島海峡大橋に備えました。めざす今治市の岬までは、間に馬島をはさんで約4kmの海の上を歩くこととなります。橋梁の夜行灯から降り注ぐオレンジ色の光を浴びながら、黙々と歩み続ける生徒たちの姿には、胸打たれるものがありました。ゴール地点の糸山公園から来島海峡大橋を眺め、長い列を目視できたのは朝5時40分。そのわずか10分後には、言葉数は少ないものの、笑顔の生徒たちが最終集合場所に到着しました。

夜間歩行のゴールは夜明け前。やがて空が白み、岬の端から朝日が顔を出してあたりを朱に輝かせます。そうした夜明けの風景は、まさに「開明」という校名そのものでした。